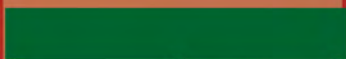


10

October 2022  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



# 感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- クロークは休止しております。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
- 厚生労働省による新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)や自治体独自の通知アプリなどの活用を推奨いたします。

## お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



会場での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

- 撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください
- フラッシュの使用はご遠慮ください

# PHILHARMONY

CONTENTS

OCTOBER 2022

# 10

3 第2000回定期公演 曲目ファン投票 投票のお願い

4 [公演プログラム] Aプログラム

7 [公演プログラム] Bプログラム

11 [公演プログラム] Cプログラム

14 [シリーズ] N響百年史 | 第31回 | “ケーニヒの学校”

片山杜秀

18 2022年11月定期公演のプログラムについて

——公演企画担当者から

20 チケットのご案内

21 2022-23定期公演プログラム

24 特別公演／各地の公演

28 特別支援・特別協力・賛助会員

32 NHK交響楽団メンバー

33 曲目解説執筆者／Information／お詫びと訂正

34 みなさまの声をお聞かせください！

35 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO  
Members

[Artist Profiles & Program Notes]

36 Program A

38 Program B

41 Program C

43 The Subscription Concerts Program 2022-23

46 役員等・団友

## インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは34ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

# Special Thanks




## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

# NHK交響楽団 第2000回定期公演 曲目ファン投票



## 投票のお願い

1927年2月の第1回以来、N響の活動の根幹として続けられてきた「定期公演」が、2000回の節目を迎えます。この記念すべき公演の曲目を、N響を応援してくださっているファンのみみなさまの投票で、3つの候補曲から選ぶこととなりました。

ご投票いただいた方には抽選でN響グッズを差し上げます。

「曲目ファン投票」に参加して、一緒にN響の新たなページをひらきませんか？

## 3つの候補曲紹介

フランツ・シュミット [1874-1939] / オラトリオ「7つの封印の書」 [N響初演]

マーラー [1860-1911] / 交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」

シューマン [1810-1856] / オラトリオ「楽園とペリ」作品50 [N響初演]

## 日程・出演者

2023年12月16日(土)、17(日)  
12月定期公演 A プログラム NHKホール  
指揮:ファビオ・ルイーヂ(N響首席指揮者)

ご投票は  
こちらから



<https://www.nhks.or.jp/feature/20220610-2.html>

郵便でもご投票いただけます。

必要事項(住所、名前、電話番号、メールアドレス[任意]、投票曲目[1つのみ]、メッセージ[任意])をご記入の上、下記までお送りください。

〒108-0074  
東京都港区高輪2-16-49  
NHK交響楽団  
第2000回定期曲目ファン投票係

締切:2022年10月31日(月)  
(郵便投票分は当日消印有効)

※投票はおひとり様1回をお願いします。  
※投票に際していただいたコメントなどは、N響ホームページやN響機関誌「フィルハーモニー」など、当団の媒体でご紹介させていただく場合がございます。

個人情報の使用目的について

●今回の投票で収集する個人情報のうち、氏名[ペンネーム可]は当団の媒体でコメントと共に紹介する場合がございます。また、氏名[ペンネーム可]およびメールアドレスは、グッズ当選時に送付先をお伺いさせていただく場合に使用させていただきます。またその他の個人情報(投票内容、年齢、性別など)については、個人が特定されない形で統計的に処理した上で投票結果として発表させていただきます。●投票結果発表後、今回収集した個人情報は合理的な範囲で速やかに破棄します。今回のアンケートで記載いただいた個人情報を第三者に提供することはありません。

この件についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

公益財団法人NHK交響楽団  
第2000回定期曲目ファン投票係  
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49  
TEL:03-5793-8120

PROGRAM

A

第1965回

NHKホール

10/15 土 6:00pm

10/16 日 2:00pm

指揮

ヘルベルト・ブロムシュテット

コンサートマスター

篠崎史紀

### マーラー

#### 交響曲 第9番 二長調 [80']

- I アンダンテ・コモド
- II ゆるやかなレントラーのテンポで。  
やや無骨で粗野に
- III ロンド・ブルレスケ:アレグロ・アッサイ。  
きわめて大胆に
- IV アダージョ:きわめてゆっくりと、抑制して

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。きたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは34ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>



## ヘルベルト・ブロムシュテット (指揮)



1927年生まれ、90代も半ばに差し掛かってきたブロムシュテットは、文字通りN響ともっとも強い絆<sup>きずな</sup>で結ばれてきたマエストロだ。初共演は1981年。それからは2年空くことはほとんどなく、隔年もしくは毎年のように来日してきた。独逸圏を中心とする王道レパートリーは言わずもがな、近年は北欧の作曲家も積極的に取り上げている(今回はBプログラムのグリーグとニルセン)。互いの音楽を知り尽くしたN響との共演は毎回深々とした感動を残し、まさに伝説が生まれる場所となっている。

ピアニストの母、牧師の父の間に生まれ、北欧で指揮者としてキャリアをスタートさせた。深い信仰を持ったこの音楽の伝道師は、1975年に長らく空席の続いていたドレスデン国立歌劇場管弦楽団の首席指揮者に就任してからは同団の黄金時代を築き、同時に自らの名声を世界に広げていく。旧東独政府の芸術への関与を嫌い、1985年にはサンフランシスコ交響楽団の音楽監督に就任(～1995)、さらに北ドイツ放送交響楽団(現NDRエルブフィルハーモニー管弦楽団、1996～1998)、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団(1998～2005)を率いた。その後は固定ポストを退いてはいるが、現在に至るまでベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする世界中の名門オーケストラを指揮し続けている。N響は1986年に名誉指揮者、2016年には桂冠名誉指揮者の称号を贈っている。

[江藤光紀／音楽評論家]

## Program Note | 岡田暁生

この作品は3重の意味で「辞世の歌」である。第1に、死を目前にしたグスタフ・マーラー(1860～1911)最後の完成作だということ。第2に、ウィーン古典派以来のドイツ／オーストリア交響曲文化を総括する作品だということ。そして第3に、第1次世界大戦によってほどなく崩れ落ちる運命にあったヨーロッパ・ベルエポックへの哀歌だということ。ブロムシュテットは2010年にもN響と本作品の超絶的名演を残した。本公演が一期一会のものとなることはまちがいない。

マーラー

## 交響曲 第9番 二長調

この作品は「死へ向けたひとつの吐息」である。この「息」は、第1楽章でさまざまに変奏されて広がり、深まり、最後は薄くなり、第2・3楽章における<sup>こうしよう けいれん</sup>哄笑や痙攣のモンタージュをはさんで、第4楽章で再び波のように寄せてかえし、そして消える。「提示部」や

「展開部」といった楽章内の各セクションはもちろん、「第1楽章」や「第2楽章」といった枠すら、作品構成にとってかりそめのものだ。何より重要なのは、楽章を貫いて生成する絶えまない動機変奏を聴きとることである。連想の網目がはりめぐらされて密度を増し、やがて分解されていく。本作品が「死」を連想させずにおかないとすれば、それは生成と分解のこのプロセスが生命の営みそのものと聴こえるからであろう。

当然ながら本作品では、楽章を超えて無数の動機関連の糸が張られている。例えば第1楽章冒頭のため息のような2度下行(《大地の歌》の最後の別れのモチーフを引き継いでいる)。このモチーフは細胞分裂のようにどんどんヴァリエーションを生み出す。「色」の連想も重要だ。構造的に同じものが、あるときは弦楽器でやさしく、あるときは金管の金切り声に、あるときはハープによる最後の時を告げる鐘へと変貌する。そして同じモチーフが、第2楽章でも唐突に戻ってくる。第1楽章の深い内面の物語とは対照的に、第2楽章はマーラーに独特の「意図的に愚劣に作られた音楽」といいたいだろうが、そこに急のため息のモチーフが戻ってくる。それはまるで、今日も繰り返される能天気な日常の営みを前に、「死にゆく私<sup>あきら</sup>が諦めのため息をつく、といった風である。

第3楽章と第4楽章におけるターン音型も重要である。第3楽章で錯乱したように繰り返されるこの音型は、途中で突如として天国からの呼びかけのようなトランペットに変貌する。悪魔が天使に姿を変える。やがて第4楽章へ引き継がれ、感動的なフィナーレの中心モチーフとなる。楽章の終わりで息が絶えそうな弱音のチェロ独奏が、このモチーフの反転型をかなでることも聴き落としてはならない。下行する吐息のようだった音型が上行型になる。帰依と微かな希望が見える。そして作品は閉じられるのだ。「死」といえば、第1楽章や第4楽章のとりわけ終わりにおける、徐々に体温が低くなっていくような薄いテクスチャーについてアルバン・ベルクは、「極めて希薄な空気——山々のはるか上方」と呼んだ。それは血肉ある本来の「音楽」の亡霊のようなものだ。魂は肉体を離れ影の世界にはいっていく。かつてレクイエムがそうであったように、本作は死の世界との交感であり、曲が閉じられたあとのブラボーがどうやっても寒々しくしてしまうのも、そのせいである。

ワルターによる初演はマーラーの死後、当時始まったばかりだったウィーン音楽週間の一環として楽友協会ホールで行われ、プログラム前半にはハイドンの《交響曲第95番ハ短調》が置かれていた。

作曲年代	1909年夏から1910年4月にかけて
初演	1912年6月26日、ブルーノ・ワルター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による
楽器編成	フルート4、ピッコロ1、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット4(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、トライアングル、タムタム、グロッケンシュピール、チューブラー・ベル、ハープ2、弦楽



PROGRAM

B

第1967回

サントリーホール

10/26 水 7:00pm

10/27 木 7:00pm

指揮	ヘルベルト・ブロムシュテット   プロフィールは p. 5
ピアノ	オリ・ムストネン
ソプラノ	盛田麻央*
バリトン	青山 貴*
コンサートマスター	白井 圭

### グリーグ

#### ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 [30']

- I アレグロ・モルト・モデラート
- II アダージョ
- III アレグロ・モデラート・モルト・エ・マルカート

—— 休憩 (20分) ——

### ニルセン

#### 交響曲 第3番 作品27「広がり」\*[39']

- I アレグロ・エスパンシーヴォ
- II アンダンテ・パストラーレ
- III アレグレット・ウン・ポコー
- IV 終曲:アレグロ

※ 演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきますたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは34ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## オリ・ムストネン(ピアノ)



© Olli Mustonen

オリ・ムストネンはピアノ、作曲、指揮のいずれにも情熱を注ぐ総合的な音楽家として、独自の信念で現代を生きている。フィンランドのヘルシンキに生まれ、5歳のときピアノ、チェンバロ、作曲を学び始める。ピアノをラルフ・ゴトーニ、エーロ・ヘイノネン、作曲をエイノユハニ・ラウタヴァーラに師事。1980年代半ばから新世代のピアノ・ヴィルトウオーソとして、透明な音と切れ味のよい技巧、理知的な解釈で注目を集めた。

近年はベートーヴェンやプロコフィエフをはじめ、作曲家としての視点も活かした鋭敏な表現を録音にも結実させる。作曲家としてはピアノや室内楽に留まらず、オーケストラや声楽の作品も発表。指揮活動にも意欲的に取り組み、2021年からトゥルク・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督兼首席指揮者を務めている。1990年以降来日も重ね、N響とは1991年にラフマニノフ《第3番》でピアニストとして初共演。2009年にはベートーヴェンを弾き振り、自作とシベリウスを指揮した。以来ひさびさの登場となる今秋、プロムシュテット指揮する北欧プログラム、グリーグでの共演に大きな期待がかかる。

[青澤隆明／音楽評論家]

## Program Notes | 小林ひかり

ノルウェーの作曲家エドヴァルト・グリーグ(1843~1907)の《ピアノ協奏曲イ短調》の日本初演は1912年。そしてNHK交響楽団は1926年の結成後、早くも第2回の定期公演でこれを取り上げた(いずれの演奏会もソリストはノルウェー出身のハンカ・シェルデルブ・ベツォールド)。その後この作品は日本でも多くの演奏家によって演奏され、現在では最も広く知られた協奏曲のひとつとなっている。それに対してデンマークの作曲家カール・ニルセン(1865~1931)の作品にはそこまで知名度の高いものはないが、彼の自由奔放な作風は20世紀後半に世界的に高く評価されるようになり、近年では日本での演奏の機会も増えつつある。本日演奏される《交響曲第3番》は、ニルセンの生前にはヨーロッパで彼の全作品中最大の人気を得た作品であり、ユニークな個性を感じさせてくれるだろう。

## グリーグ

## ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

この協奏曲はグリーグが25歳のときに作曲した作品。結婚の翌年で娘が生まれたばかりの、人生の幸せな時期であった(ところがその娘は《ピアノ協奏曲》初演の翌月に1歳で夭逝するという悲劇が起こる)。1868年の夏、グリーグは妻子がコペンハーゲンに住む妻の

両親のもとで過ごす間、《ピアノ協奏曲》の作曲に専念するため、コペンハーゲン郊外の田舎町セイレズに滞在する。そこで一緒に過ごした友人のひとりが、この協奏曲が献呈され初演でソリストを務めることになるエドムン・ネウペットだ。グリーグ自身もピアノを巧みに弾いたが、一流ピアニストであるネウペットから助言を得られたのは有意義だった。初演は嵐のような拍手が起こるほどの大成功。その様子を不在だったグリーグに友人たちが手紙で伝えている。ニルス・ゲーゼやアントン・ルビンシテインらの重鎮も特別席で聴いた。

第1楽章冒頭のピアノ独奏は、まるでフィヨルドに落ち込む滝のようで、聴き手に強烈な印象を与える。この「ラーソ♯一ミ」という「短2度下行―長3度下行」の音型は、この協奏曲の重要なモチーフ。ノルウェーの民俗音楽によくある特徴で、グリーグの多くの作品に見られることからグリーグ・モチーフとも呼ばれる。第2楽章はイ短調から遠く離れた変ニ長調による緩徐楽章。第3楽章は快活なノルウェー舞踊を思わせる主題を持つ。中ほどでは先述のモチーフがフルートによるへ長調の叙情的なメロディで出てくる。北欧の夏の山々の清涼な空気を感じさせるようなこのメロディは、コーダの後半では堂々たるクライマックスで登場する。

本作品は同じ調性のシューマンの《ピアノ協奏曲》をモデルにしたと言われている。グリーグはライブツィヒ留学1年目の1858年にシューマンの妻クララが弾くその協奏曲を聴いており、その影響は大きく、確かにいくつかの類似点が認められる。しかしグリーグの協奏曲で前面に出てくるのは、沸き立つような喜びの率直な表現であり、快活さと優しさや純真さがある。そこにノルウェーらしさも加わって、この作品は若きグリーグの個性が存分に発揮された渾身の大作となっている。

作曲年代	1868年。1872年出版。1882年、1890年、1894～1895年、1906～1907年改稿
初演	1869年4月3日、コペンハーゲン、カシノ大ホール、ホルガー・シモン・パウリ指揮、エドムン・ネウペット独奏
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

## ニルセン

### 交響曲 第3番 作品27「広がり」

ニルセンは、作家H. C. アンデルセンの出身地として知られるデンマークのオーゼンセ市の郊外で、12人兄弟姉妹の7番目として生まれた。父親はペンキ職人だが郷土の伝統音楽をフィドルやコルネットで巧みに演奏し、母親は民謡を子どもたちに歌って聞かせた。生活は貧しかったが、心温かい両親のもとで音楽に接しながら育った。14歳でオーゼンセの軍楽隊の楽士となったあと、当時のデンマークの音楽界の中心人物ゲー

ずに作曲作品が認められて、18歳から3年間は彼が学長を務めるコペンハーゲン音楽院で学んだ。1889年にはデンマーク王立管弦楽団の第2ヴァイオリン奏者となって各楽器に通暁するようになり、この頃から生涯6曲残すことになる交響曲の作曲への試みが始まる。《交響曲第3番》に取りかかる2年前の1908年には、デンマーク王立管弦楽団の第2指揮者に就任する。オーケストラでの仕事は多忙でストレスも多かったが、指揮者になることでオーケストラの機能をより深く理解するようになり、それは《交響曲第3番》に反映されることになった。初演は大成功。その後もヨーロッパ各地で演奏の機会を得て好評を博した。

《交響曲「広がり」》は原題では「シンフォニア・エスパンシーヴァ(Sinfonia Espansiva)」で、これは第1楽章の発想記号「アレグロ・エスパンシーヴォ」に由来する。ニルセンはこの交響曲についてプログラム・ノートを何度か書いた。第1楽章については、「広い世界に向けて放出されるエネルギーと人生肯定」という言葉で、この楽章の持つ緊張感や前向きな人生観を語っている(1931年3月ストックホルムでの公演に際して)。このようなニルセンの意図は、ラの音のみによる序奏で始まって次々と調が変化していくところに特によく表れている。第2楽章は打って変わって、「自然界の平和と静けさの描写で、入り込んでくるのは鳥などの声のみである」(1912年4月アムステルダム、コンサートヘボウでの公演に際して)。晩年には、「われわれの最初の祖先アダムとイヴの原罪の前の楽園」とも表現した。この楽章では母音唱法によるバリトンとソプラノのソロが登場するところがユニークである。草稿では当初、「すべての思考は消えた。ああ! 私は空の下に横たわっている」という歌詞が付けられていたが、最終的には歌詞は入れないことになった。第3楽章はスケルツォ風で不安定な性格なのに対し、第4楽章は明快だ。ニルセンの言葉では「労働と健全な日常生活への賛歌」(先のストックホルム公演に際して)。まさに生きる喜びの表現で、力強く前進するその音楽には、人々を勇気づける魅力的な美しさがある。

作曲年代	1910～1911年4月30日
初演	1912年2月28日、コペンハーゲン、オッドフェロー・コンサートホール、作曲家自身による指揮、デンマーク王立管弦楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、弦楽、ソプラノ、バリトン

PROGRAM

C

第1966回

NHKホール

10/21 金 7:30pm

10/22 土 2:00pm

指揮

ヘルベルト・ブロムシュテット | プロフィールはp. 5

コンサートマスター

白井 圭

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

21日(金)6:45pm~/22日(土)1:15pm~

ヴァイオリン: 森田昌弘、坪井きらら ヴィオラ: 三国レイチェル由依 チェロ: 村井 将  
シューベルト/弦楽四重奏曲 第6番 ニ長調 D. 74—第3楽章、第4楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

### シューベルト

#### 交響曲 第1番 ニ長調 D. 82 [29']

- I アダージョーアレグロ・ヴィヴァーチェ
- II アンダンテ
- III メヌエット:アレグロトリーツ
- IV アレグロ・ヴィヴァーチェ

### シューベルト

#### 交響曲 第6番 ハ長調 D. 589 [27']

- I アダージョーアレグロ
- II アンダンテ
- III スケルツォ:プレストーピウ・レント
- IV アレグロ・モデラート

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは34ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

進むべき方向が定まらぬままに何でも試してみる、おもちゃ箱みたいな「初期作品」もある。フランツ・シューベルト(1797~1828)でいえば室内楽やピアノ・ソナタがそうだ。いっぽう、はっきりした「型」に折々のしらべを注ぎ込んでゆく、当初から完成度の高いジャンルもある。交響曲がそれだ。

シューベルトの初期交響曲とよばれるのは、最初の6作である。めぐまれた環境で、16歳から21歳までほぼ毎年生まれたシンフォニーたち——本日はその第一作と最終作の取り合わせ。仲間たちと奏でられた、憂いなき響きをお楽しみいただこう。

## シューベルト

### 交響曲 第1番 二長調 D. 82

シューベルトの少年時代は、ウィーンの花盛りにあたる。5つの劇場で芝居やオペラがぜいたくに上演されていた。巨星ベートーヴェンは新作を矢継ぎ早に発表し、他界して年も浅いハイドンとモーツァルトの音楽も街を賑わせていた。そんな帝都の市内に建つ帝室寄宿学校(コンヴィクト)では、生徒たちによるオーケストラがオペラ序曲の編曲や交響曲をのびのび響かせていた。このめぐまれた環境のなか、11歳の少年は聖歌隊で清らかなソプラノを歌いつつ、やがて学内オーケストラを支える存在となる。さまざまなジャンルを自在に吸収しつつ、“仲間と奏でる”音楽が<sup>つちか</sup>培われていったのだ。

声変わりを迎えてコンヴィクトを巣立ったその年に、16歳で初の交響曲が生み出される。上にあげた大先輩たちを完璧なバランス感覚で模倣しつつも、劇場から出てきたような管楽器の声も鳴り響く、じつにみずみずしいデビュー作だ。とはいっても出版や公の上演がめざされることはなく、パトロンが提供してくれる広い屋敷に最大で30人ほどのアマチュアが集まって合奏した。訪れる人も気軽にそれを愉しんでいたようだ。シューベルトがタクトをとる機会もあっただろう。

お気に入りだったベートーヴェンの《第2番》に通じるほがらかな第1楽章では、2本のトランペットによるスリリングな高音が後半できわだつ。シューベルトは管楽器の扱いには総じて穏健だったが、ここにはふつうの作曲家は(ベートーヴェンすら)まず書かない、例外的な声が聴こえてくる。ちょうど声変わりを迎えた少年の叫びだろうか。

おだやかな第2楽章は、モーツァルトの《第38番「プラハ」》(1786)をさらっと、だがははっきり引用している。メヌエットの第3楽章はオーストリアの田舎の踊り(レントラー)。ハイドンの様式をふまえた、もっとも伝統的な楽章といえよう。第4楽章では、小気味よいリズムによって第1楽章のテーマを回想することで、約30分のドラマが円満にまとめあげられている。



作曲年代	1813年10月28日完了
初演	1881年2月5日ロンドン。ただし作曲後ただちにウィーンで、なかばプライベートな環境で上演されたことは間違いない
楽器編成	フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

シューベルト

## 交響曲 第6番 ハ長調 D. 589

みずみずしいデビュー作からおよそ5年、初期交響曲を閉じる《第6番》は、21歳の誕生日を少し過ぎたころに完成をみた。この間に、劇作品が6つも手がけられている。おりしもウィーンの劇場では毎週のようにロッシーニのオペラが喝采をあげていた。シューベルトもこのジャンルで成功して名を売るためにロッシーニ作品をいくつも観劇して称賛しつつ——ただし醒めた批判も忘れず——オペラ作曲家への道を邁進していたのだ。こうして南国のしらは器楽にも流れ入り、かたい交響曲の型をたのしげな熱風で溶かしていた。この柔軟な陽気さは、古典派の模範たる《第1番》のあとでは、いちだんときわだってくるだろう。

ほかの交響曲に見られない最大のポイントは、管楽器による豊かな歌いかわしである。早くも初演のようすは「おびたく吹きさぶオーケストラに、弦楽器は従属しているようだった」と報じられている。そんな特徴を誇っていたのだろう、自筆譜には「大ハ長調交響曲 (Große Sinfonie in C)」という堂々たるタイトルが記されている。おもえば、もっとも原初的な「ハ長調」にこれほど多彩な声をもりこむ交響曲は、モーツァルトの《ジュピター》(1788) 以外には存在しない。7年後(1825～1826)になるとこの志向は、もうひとつの「大ハ長調＝ザ・グレート」(《第8番》) となって結実することになる。

**第1楽章** オペラの牧歌シーンのような序奏と、笑いさざめくテーマ(フルート+オーボエ)で始まる。これだけでもう前作までの、いや古典派の王道から大きくはずれている。

**第2楽章** トランペットとティンパニに注目。静かな楽章ではふつう休んでいる楽器だ。このぶあつい緩徐楽章のスタイルは、のちの《大ハ長調》に受け継がれる。

**第3楽章** はじめて「メヌエット」ではなく「スケルツォ」と表記された意欲作。ベートーヴェン《第1番》の第3楽章を模しながら、未曾有の規模に拡大されている。

**第4楽章** どちらかという緩徐楽章のスタイルではじまったメロディが、大きく渦巻きながら高揚してゆく。まるでオペラのフィナーレのような終楽章である。

作曲年代	1817年10月に着手、翌年2月に完成
初演	1828年12月14日、ウィーンのレドゥーテンザールにて。ただし作曲後ただちにウィーンで、なかばプライベートな環境(ハトロンであったハトヴィヒの邸宅)で上演されたことは間違いない
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

C

21 & 22 OCT. 2022

# N響百年史

## 第三十二回「ケーニヒの学校」

片山杜秀  
Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。近衛秀麿を担ぎ上げ、新生なった新交響楽団。その活動を支えたのは第二の指揮者、ヨーゼフ・ケーニヒでした。

### 改元とともに

大正天皇は、大正期の半ばから心身ともに不調になりがちだった。1921(大正10)年の秋には、通常の公務を継続するのはいよいよ困難と周囲に判断され、皇太子が摂政の位に就き、天皇の仕事を代行するようになった。以後、大正天皇は養生に専念する。が、体調は回復しない。葉山の御用邸に滞在中だった1926(大正15)年の10月からは連日、高熱が続く。11月になると、頻繁に病状が発表されるようになる。崩御、新帝即位、改元につながる状況らしい。天皇中心の国柄を保つ日本としては、国家社会の最大級の更新期を、また迎えるのかもしれない。今日はどうなるか。国民は、新聞も読みたいが、より早く情報を伝えてくれるラジオのニュースに耳を傾けたくなる。受信契約者数が急激に伸びる。夏に新発足したばかりの社団法人日本放送協会は、事業規模の拡大につながる特殊な頃合いを、いきなり迎えた。

日本放送協会を最大の公的後盾とし、指揮者、近衛秀麿の兄、文麿を当主とする近衛公爵家の財産に頼ることも大きいかたちで、新交響楽団(現NHK交響楽団)が誕生し、船出したのは、そんな大正天皇の御不例の時期と、まさに重なっていた。結成日は10月5日。日本交響楽協会からの脱退メンバーだけでは交響楽団として頭数が足りないというので、あちこちからスカウトして団員を増やししながら、新しいオーケストラの最初の本格的コンサートとなる第1回の研究発表演奏会を開いたのは、10月22日。近衛が指揮し、ベートーヴェンの《交響曲第4番》やリヒャルト・シュトラウスの《13管楽器のためのセレナード》を披露した。管楽ア

ンサンプルのための作品を取り上げたところに研究発表と銘打った意味があろう。新しい楽団の腕前をパートごとに剥き出しにし、技術点を獲得したうえで、さらに室内楽的アンサンプルの妙味を示せるかどうか。危険な賭けだったが、さいわい好評を得た。新楽団は行ける！関係者は自信を深めた。

研究発表のシリーズは、年内にさらに2回、いずれもやはり近衛の指揮で行われた。11月19日に、ヨーゼフ・ケーニヒをソリストを迎えてのベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》と、ドヴォルザークの《交響曲第9番「新世界から」》等。大正天皇の容体をめぐって世に緊張の深まる12月5日には、モーツァルトの《交響曲第41番「ジュピター」》とシューベルトの《交響曲第7番「未完成」》(当時の数え方だと《第8番》)等。これらもまた評判は上々だった。

日本交響楽協会と一緒に弾いていた楽員たちがほとんどそのまま移行しているオーケストラだから、アンサンブルはすでにそれなりに出来ている。3回の研究発表演奏会で、そのことを放送局にも聴衆にも認知させられた。新たに定期演奏会を始められる態勢は十分に整った

ろう。近衛秀麿はそう判断した。会場は、日本交響楽協会が用いてきた、兄文麿の顔のきく日本青年館で、引き続きOK。日本交響楽協会の定期会員が新交響楽団に横滑りしてくれているから、まだまだ少ないとはいえ、収入の見通しも立つといえれば立つ。翌年1月から定期公演をスタートさせてよいのではないか。そんな心づもりだったが、12月25日、大正天皇崩御。大正15年はあと1週間もないところまで押し詰まってから、とても短い昭和元年となった。

明治天皇崩御のときと比べれば、日本の社会もずいぶん変わって、歌舞音楽を謹む期間もそう長くなってよい雰囲気になったけれど、それでも1月からの定期開始はいかにも無理。新交響楽団の記念すべき第1回定期公演は、翌月にずれ込み、1927(昭和2)年2月20日、日本青年館で行われた。指揮はむろん近衛秀麿。曲目は、メンデルスゾーンの《序曲「フィンガルの洞窟」》、モーツァルトの《歌劇「イドメネオ」》からのパレエ音楽、シューベルトの《交響曲第8番》(当時の数え方だと《第7番》)、いわゆる《大ハ長調交響曲》または《ザ・グレート》である。そこに大正天皇追悼曲として、弦楽のみによる、グ



1927(昭和2)年2月20日、日本青年館で行われた新交響楽団の第1回定期公演

リーグの《2つの悲しい旋律》が付け加わった。

このようにして、新交響楽団の歴史は、日本放送協会という新しい組織、そして昭和という新しい元号と、ほぼ歩を一にして始まることとなった。新交響楽団の“新”の字には、山田耕筰の日本交響楽協会から離別して、心機一転、日本における西洋音楽の牽引役た然とする新しいオーケストラという含意があると思われ、新しい放送局や新しい元号とは直接には関係ないはずだが、そこは歴史の綾である。新の字の生きる絶妙なタイミングに新交響楽団は出現した。

## ヨーゼフ・ケーニヒとは誰か

さて、定期公演のペースは？ 日本交響楽協会時代と同じく月2回が原則で、7月と8月が夏休み。したがって年20回が原則となる。第2回の定期公演はというと、第1回の1週間後の2月27日に行われた。日本交響楽協会では月に2回の定期を近衛と山田で1回ずつ分担する要領だったが、新交響楽団はどうだったろう？ 近衛が全部振ったのか。

そうではなかった。最初のうちはヨーゼフ・ケーニヒと近衛がほぼ半分ずつだった。第2回の定期はケーニヒの指揮である。東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）の声楽教授を務めていた、いわゆる“お雇い外国人”のハンカ・ペッツォールドをソリストに、グリーグの《ピアノ協奏曲》をやり、メインの大曲はチャイコフスキーの《交響曲第6番「悲愴」》だった。ペッツォールド夫人は声楽家だけれど、リストに習ったピアニストでもある。オペラ歌手が余技でピアノを弾いたわけではけっしてなかった。

それはともかくケーニヒとは誰か。前回にも

触れたように、日露交戦（<sup>こうかん</sup>交戦）交響管絃楽演奏会の際にハルピンより来日した楽人のひとり。そのとき、音楽性のみならず、接しやすい人柄ゆえに、日本側の楽員から厚い信頼を得た。日本交響楽協会ができて社団法人東京放送局と契約すると、協会を技術面で育成するために東京放送局が招聘する指導者という立場で再び来日し、山田、近衛に続く第3の指揮者になった。とはいえ、彼はあくまで日本交響楽協会ではなく、東京放送局に属していて、それが日本放送協会に改組されると、ケーニヒの身柄を預かる先も日本放送協会になった。その日本放送協会が、山田の率いる日本交響楽協会から近衛の率いる新交響楽団へと契約するオーケストラを変更。ケーニヒの役目は放送局の契約する楽団の指導だから、仕事先は日本交響楽協会から新交響楽団へと自動的にスライドした。

こうして、第1の指揮者を近衛、第2の指揮者をケーニヒとする新交響楽団の体制ができた。しかし、実際にはホストの近衛は客分のケーニヒに頭が上がらない。1927（昭和2）年にはケーニヒは53歳、近衛は29歳。近衛は山田耕筰に作曲を学び、ベルリンで指揮の技術に磨きをかけ、ベルリン・フィルハーモニー管絃楽団を指揮した実績も有する。優れたオーケストラを相手に、指揮者としてアーティストックに勝負するのなら申し分あるまい。しかし、技術的に発展途上の楽団相手に、具体的に管絃楽器の奏法やアンサンブルの細部の詰め方を教えるとなるとどうか。近衛本人が特定の楽器に習熟しているわけでもない。トレーナーの能力は十分でないところがある。

一方のケーニヒは指揮の専門家では必ずしもない。少年時代から一貫してヴァイオリニストだ。でも、オランダや北欧の名門オーケストラの

メンバーを経て、サンクトペテルブルクのマリンスキー劇場管弦楽団のコンサートマスターを20年以上やっていた。なぜ、それだけ続いたかといえば、マリンスキー劇場に長期にわたって君臨し、ムソルグスキーの《ボリス・ゴドノフ》も、チャイコフスキーやリムスキー・コルサコフの多くのオペラも初演したエドゥアルト・ナブラヴニクは、プラハに学んだボヘミアの音楽家であり、ケーニヒもまたプラハの出身で、ナブラヴニクとは絶妙のコンビだったからである。そんなケーニヒは指揮者の看板を出していなくても、もちろん指揮をすることがあった。ナブラヴニクは、ハンス・リヒターやニキシュやマーラーの指揮のもとで演奏し、彼らのやり方を熟知していた。室内楽の経験がまた豊富で、アムステルダムでもヘルシンキでもサンクトペテルブルクでもハルビンでも、弦楽四重奏をやってきている。オーケストラとは室内楽を拡張したものであり、管楽セクションも弦楽セクションも、メンバーが室内楽の経験を持てば持つほど、オーケストラも向上する——そういう信念を強く持っていた。試演会や第1回定期演奏会に管楽のみや弦楽のみの曲が入っているのは、トレーナーとしてのケーニヒの差配と思われる。

確かに新交響楽団は、当時の日本におけるオーケストラ・プレイヤーの手練れを集めている。けれども、一流の師匠について子供の頃から学び、基礎習練の十分な団員となると、ほとんどおろまひ。軍楽隊や少年音楽隊や映画館とかホテルとかの楽隊で、丁稚奉公的に現場で揉まれて叩き上げられ、よろしくない言葉をあえて用いれば、二流・三流の師匠にけっして合理的でない指導をされ、ひたすらしごかれ

て、見様見真似でやってきた奏者ばかりといつてよいくらいである。個々の奏法についても、合奏の技術についても、<sup>くろうと</sup> 玄人の真の極意を知りたくて、みんなうずうずしている。だからこそ、日露交響管絃楽演奏会で一流のヨーロッパの演奏家たちと一緒に合奏できて興奮し、真のアンサンブルの喜びに目覚めてしまい、その続きに人生を懸けたくて、日本交響楽協会から新交響楽団へと流れ込んできている。彼らが欲するのは、本番では、おのれの解釈をもって芸術的に見栄えよく振れる近衛なのかもしれないが、練習では、指揮者としての見栄えはよくないけれども真の職人芸をマイクロなレベルで日々伝授してくれるケーニヒなのだった。

ケーニヒは、1926(大正15/昭和元)年から1929(昭和4)年までの足掛け4年、日本交響楽協会と新交響楽団を鍛えた。日々の練習の面倒を見、多くの本番を振り、近衛が振るときも、後見役になり、アドヴァイスを怠らず、<sup>おこた</sup> ついに近衛にうるさがられた。山田でも近衛でもなく、彼こそが、新交響楽団に、本場の作法を初めて事細かに教え、アンサンブルの意味に目を開かせ、ついでにいえば、指揮者に単に従うのではなく、指揮者とときに張り合いさえするほどの楽員の誇り高さ主体性のありようまでも教えた。

“ケーニヒの学校”の時代の遺伝子は、おそらく今もオーケストラに脈々と生きている。

#### 文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。



# 2022年11月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

指揮者にはそれぞれ十八番<sup>おはこ</sup>と呼ばれるレパートリーがあるが、井上道義とショスタコーヴィチ、スラットキンとコーブランドの組み合わせには、好きとか得意といったレヴェルを超えた、宿命的な結びつきを感じる。スペシャリストのタクトが、20世紀の超大国・米ソで生まれた傑作に光を当てる。

### 井上道義がショスタコーヴィチ 《交響曲第10番》で 作曲家の真意を問う

予定調和を望まず、聴き手に新鮮な驚きを与えることが井上道義の信条だ。コロナ禍<sup>か</sup>に蔓延<sup>まんえん</sup>する同調圧力にも抗い続けてきた。2020年12月の伊福部&ショスタコーヴィチは、定期公演休止中のN響が気を吐いた企画だが、今回の[Aプログラム]はその続編である。

スターリンの恐怖政治の下、本心を隠しながら主張を貫いたショスタコーヴィチの芸術に、井上は生涯をかけて挑んできた。《交響曲第10番》は狂暴な権力者の肖像か、それと

も単に人間の感情・情熱を描いたものか。作曲家の意図は闇の中だが、真のメッセージを探る試みは、決して歴史の勉強ではない。理不尽な戦争が続く今、改めて問い直すべきかも知れない。

アカデミックな洋楽の受容とは一線を画し、アジアの風土に根差した音楽を追い求めた伊福部昭も、井上が共感を抱く作曲家である。アイヌ舞踊に着想を得た《シンフォニア・タプカーラ》では、独特の音階と原始的なリズムが躍動する。井上のパワーが、常識のリミッターを突き破る瞬間に立ち会いたい。

### “アメリカ最高の作曲家” コーブランドの2つのバレエ音楽

[Cプログラム]は、レナード・スラットキンが尊敬し“アメリカ最高の作曲家”と位置づけるコーブランドのバレエ音楽。大衆的な映画音楽から十二音技法を使った実験的な作品まで、幅広い分野で活躍したコーブランドを、バーンスタインは“アメリカ音楽の大祭司”と



呼んだ。精力的な仕事ぶりや、エンターテイナーとしての天性の資質は、指揮者スラットキンにも共通する。

《アパラチアの春》と《ロデオ》は、どちらも素朴で親しみやすいメロディに富み、叙情性や生き生きしたダンス・シーンにも事欠かない。ワイルドでノスタルジックなアメリカを満喫できる2曲である。

### ヴォーン・ウィリアムズ&メンデルスゾーン —— 天国的な美しさを堪能する

[Bプログラム]では、今年生誕150年を迎えたヴォーン・ウィリアムズ (RVW) の作品を送る。《「富める人とラザロ」の5つのヴァリエーション》は、聖書のエピソードに基づくバラードが原曲。RVWはイギリス各地に形を変えて伝わる旋律を集め、ハーブと弦楽の響きが印象的な佳品を生み出した。初めて聴いたスラットキ

ンは、天国に行くような喜びを感じたという。

ロ長調の主和音(シレ#ファ#)で曲が消え入るように終わると、メンデルスゾーン《ヴァイオリン協奏曲》のソロが、それを受けて静かにシの音で始まる。イギリスをこよなく愛した作曲家による、名曲中の名曲。天国的な美しさはここでも持続する。レイ・チェンは、昨年公開の映画『天才ヴァイオリニストと消えた旋律』で演奏を受け持った俊英である。

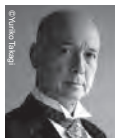
最後は再びRVWの《交響曲第5番》。彼が同じ頃に手がけていた《歌劇「天路歷程」》と共通の素材でできている。オペラの原作は、クリスチャンがさまざまな試練を乗り越え、天国に到るまでの道のりを描く。戦時下に書かれた交響曲のテーマは“永遠の平和”であったという。天上の調べとともに、深まりゆく秋のひと時をお楽しみいただきたい。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 11/12 土 6:00pm  
11/13 日 2:00pm

NHKホール

伊福部 昭 / シンフォニア・タブカーラ  
ショスタコーヴィチ / 交響曲 第10番 ホ短調 作品93  
指揮：井上道義



**B** 11/23 水・祝 7:00pm  
11/24 木 7:00pm

サントリーホール

ヴォーン・ウィリアムズ生誕150年  
ヴォーン・ウィリアムズ /  
「富める人とラザロ」の5つのヴァリエーション  
メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ヴォーン・ウィリアムズ / 交響曲 第5番 二長調  
指揮：レナード・スラットキン  
ヴァイオリン：レイ・チェン



**C** 11/18 金 7:30pm  
11/19 土 2:00pm

NHKホール

コーブランド / バレエ音楽「アパラチアの春」(全曲)  
コーブランド / バレエ音楽「ロデオ」(全曲)  
指揮：レナード・スラットキン



# チケットのご案内(定期公演 2022年9月~2023年6月)

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	10-11月	発売中
	12-1・2月	10月27日[木](定期会員先行)／10月30日[日](一般)
	4-5-6月	2023年3月発売予定(定期会員先行／一般)

※発売日は決まり次第、N響ホームページ等で発表いたします

※発売予定時期は変更となる場合があります

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10~30%お得です! (割引率は公演や券種によって異なります)

※ A-CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません

発売開始日	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	2022年10月13日[木](定期会員先行)／2022年10月19日[水](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2023年2月14日[火](定期会員先行)／2023年2月17日[金](一般)

## 料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※( )内は1公演あたりの単価

## WEBセレクト3+

Autumn(9~11月)、Winter(12~2月)、Spring(4~6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります

※1回券の一般発売日からご利用いただけます

※割引の併用はできません

※定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください

## ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022-23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます

## お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間: 11:00am~5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

- 主催公演開催日は曜日に問わず11:00am~開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は11:00am~3:00pmの営業
- 感染症予防対策のため電話受付のみの営業

## WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhkso.or.jp>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

Please follow us on     

# 2022-23定期公演プログラム

2022 10	A	第1965回	マーラー 芸術の集大成《交響曲第9番》をプロムシュテットが究める マーラー／交響曲 第9番 二長調	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥6,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
		10/15(土) 6:00pm 10/16(日) 2:00pm			
	NHKホール	指揮：ヘルベルト・プロムシュテット			
2022 11	B	第1967回	グリーグとニルセン プロムシュテットが愛でる北欧の名作 グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ニルセン／交響曲 第3番 作品27「広がり」	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥6,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		10/26(水) 7:00pm 10/27(木) 7:00pm			
	サントリーホール	指揮：ヘルベルト・プロムシュテット ピアノ：オリムストネン			
2022 11	C	第1966回	巨匠が愛情をこめて奏でるシューベルトの知られざる名作 シューベルト／交響曲 第1番 二長調 D. 82 シューベルト／交響曲 第6番 八長調 D. 589	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		10/21(金) 7:30pm 10/22(土) 2:00pm			
	NHKホール	指揮：ヘルベルト・プロムシュテット			
2022 11	A	第1968回	完全燃焼への序章 井上道義の家芸 伊福部 & ショスタコーヴィチ 伊福部 昭／シンフォニア・タブカーラ ショスタコーヴィチ／交響曲 第10番 ホ短調 作品93	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		11/12(土) 6:00pm 11/13(日) 2:00pm			
	NHKホール	指揮：井上道義			
2022 11	B	第1970回	エキスパートのタクトで味わう英国作曲界の巨人による叙情あふれる名作 ヴォーン・ウィリアムズ生誕150年 ヴォーン・ウィリアムズ／「富める人とラザロ」の5つのヴァリエーション メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 ヴォーン・ウィリアムズ／交響曲 第5番 二長調	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
		11/23(水祝) 7:00pm 11/24(木) 7:00pm			
	サントリーホール	指揮：レナード・スラットキン ヴァイオリン：レイ・チェン			
2022 11	C	第1969回	アメリカ音楽の伝道師スラットキンのコーブランド名バレエ音楽集 コーブランド／バレエ音楽「アバラチアの春」(全曲) コーブランド／バレエ音楽「ロデオ」(全曲)	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		11/18(金) 7:30pm 11/19(土) 2:00pm			
	NHKホール	指揮：レナード・スラットキン			
2022 12	A	第1971回	ルイーダ&藤村のコンビで味わう19世紀ドイツ・ロマンティシズムの真髄 ワーグナー／ウェーゼンドクク5つの詩 ブルックナー／交響曲 第2番 八短調(初稿/1872年)	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
		12/3(土) 6:00pm 12/4(日) 2:00pm			
	NHKホール	指揮：ファビオ・ルイーダ メゾ・ソプラノ：藤村実穂子			
2022 12	B	第1973回	ルイーダの指揮、河村尚子のピアノで“究極”の名曲を堪能する グリンカ／歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18 ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		12/14(水) 7:00pm 12/15(木) 7:00pm			
	サントリーホール	指揮：ファビオ・ルイーダ ピアノ：河村尚子			
2022 12	C	第1972回	モーツァルトの輝き、メンデルスゾーンの哀愁 ルイーダが描き出す鮮烈なコントラスト モーツァルト／交響曲 第36番 八長調 K. 425「リンツ」 メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		12/9(金) 7:30pm 12/10(土) 2:00pm			
	NHKホール	指揮：ファビオ・ルイーダ			

	A NHKホール	B サントリーホール	C NHKホール
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2023 01	<b>A</b> 第1974回 <b>1/14</b> 土 6:00pm <b>1/15</b> 日 2:00pm NHKホール	名匠がブラームスとベートーヴェンの傑作を携え3年ぶりに登場! <b>ブラームス/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83</b> <b>ベートーヴェン/交響曲 第4番 変ロ長調 作品60</b> 指揮:トウガン・ソヒエフ ピアノ:ハオチェン・チャン	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	<b>B</b> 第1976回 <b>1/25</b> 水 7:00pm <b>1/26</b> 木 7:00pm サントリーホール	色彩の魔術師ソヒエフがセレクトする20世紀の名品たち <b>バルトーク/ヴァイオリン協奏曲(シュレイ版)</b> <b>ラヴェル/[ダフニスとクロエ]組曲 第1番、第2番</b> <b>ドビュッシー/交響詩「海」</b> 指揮:トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン:アミハイ・クロス	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500
	<b>C</b> 第1975回 <b>1/20</b> 金 7:30pm <b>1/21</b> 土 2:00pm NHKホール	名匠が贈るラフマニノフ、チャイコフスキーの初期の名作 <b>ラフマニノフ/幻想曲「岩」作品7</b> <b>チャイコフスキー/交響曲 第1番ト短調 作品13「冬の日の幻想」</b> 指揮:トウガン・ソヒエフ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
2023 02	<b>A</b> 第1977回 <b>2/4</b> 土 6:00pm <b>2/5</b> 日 2:00pm NHKホール	父・尚忠とその友人たち 尾高忠明 こだわりの選曲が現代人の魂に響く <b>尾高尚忠/チェロ協奏曲 イ短調 作品20</b> <b>バヌフニク/カテンの墓碑銘</b> <b>ルトスワフスキ/管弦楽のための協奏曲</b> 指揮:尾高忠明 チェロ:宮田 大	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	<b>B</b> 第1979回 <b>2/15</b> 水 7:00pm <b>2/16</b> 木 7:00pm サントリーホール	大器フルシャ、母国チェコの愛国的作品とブラームスの名作を携えN響再登場 <b>ドヴォルザーク/序曲「フス教徒」作品67</b> <b>シマノフスキ/交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*</b> <b>ブラームス/交響曲 第4番 小短調 作品98</b> 指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ビョートル・アンデルシェフス* 2/19日NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500
	<b>C</b> 第1978回 <b>2/10</b> 金 7:30pm <b>2/11</b> 土祝 2:00pm NHKホール	愛、怒り、高揚、憧れ、幻想 —ダンスに込められた心の機微をフルシャが浮き上がらせる <b>バーンスタイン「ウエスト・サイドストーリー」からシンフォニック・ダンス</b> <b>ラフマニノフ/交響的舞曲 作品45</b> 指揮:ヤクブ・フルシャ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
2023 04	<b>A</b> 第1980回 <b>4/15</b> 土 6:00pm <b>4/16</b> 日 2:00pm NHKホール	パーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なパノラマ <b>R. シュトラウス/「ヨゼフの伝説」から交響的断章</b> <b>R. シュトラウス/アルプス交響曲 作品64</b> 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
	<b>B</b> 第1982回 <b>4/26</b> 水 7:00pm <b>4/27</b> 木 7:00pm サントリーホール	シベリウス、ラフマニノフ、チャイコフスキー パーヴォ・ヤルヴィの十八番でその至芸を聴く <b>シベリウス/交響曲 第4番 イ短調 作品63</b> <b>ラフマニノフ/バガニエーの主題による狂詩曲 作品43*</b> <b>チャイコフスキー/幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32</b> 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:マリー・アンジュ・グッチ*	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
	<b>C</b> 第1981回 <b>4/21</b> 金 7:30pm <b>4/22</b> 土 2:00pm NHKホール	小粒でもヒリリと辛い! パーヴォ・ヤルヴィが贈るお洒落で小粋なフランス作品集 <b>ルーセル/弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52</b> <b>プーランク/シンフォニエッタ</b> <b>イベール/室内管弦楽のためのディヴェルティスマン</b> 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800

Cプログラムについて

- ・休憩のない、60～80分程度の公演となります。
- ・曲間に解説などが入る場合があります。
- ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。

2023 05	A	第1983回	下野竜也が見つめる“祈り”と“奇跡”そしてライフワークのドヴォルザーク ラフマニノフ／歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」 グバイドゥーリナ／オフエルトリウム* ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70 指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		5/13 [土] 6:00pm			
		5/14 [日] 2:00pm	NHKホール		
2023 06	B	第1985回	新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーザが誘う《田園》 ハイドン／交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「くま」 モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」 指揮:ファビオ・ルイーザ ホルン:福川伸陽	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		5/24 [水] 7:00pm			
		5/25 [木] 7:00pm	サントリーホール		
2023 06	C	第1984回	19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーザの指揮で聴く サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」 フランク／交響曲 二短調 指揮:ファビオ・ルイーザ ピアノ:パスカル・ロジェ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		5/19 [金] 7:30pm			
		5/20 [土] 2:00pm	NHKホール		
2023 06	A	第1986回	“カゼッラ・リバイバル”の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品16 カゼッラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演] 指揮:ジャンンドレア・ノセダ ピアノ:ペフンド・アブドゥライモフ* ★当初発表の出演者から変更となりました。	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		6/10 [土] 6:00pm			
		6/11 [日] 2:00pm	NHKホール		
2023 06	B	第1988回	ノセダがメモリアルイヤーに問うラフマニノフ初期作の真価 バッハ(レスピーギ編)／3つのコラール レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲* ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13 指揮:ジャンンドレア・ノセダ ヴァイオリン:庄司紗矢香*	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
		6/21 [水] 7:00pm			
		6/22 [木] 7:00pm	サントリーホール		
2023 06	C	第1987回	満を持してN響で初披露 ノセダ得意のショスタコヴィチ《第8番》 ショスタコヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65 指揮:ジャンンドレア・ノセダ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		6/16 [金] 7:30pm			
		6/17 [土] 2:00pm	NHKホール		

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

# 特別公演

12/21 水 7:00pm

12/22 木 7:00pm

12/24 土 2:00pm

12/25 日 2:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:井上道義 ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:ベンヤミン・ブルンス  
バス:マシュー・ローズ 合唱:新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ  
ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円  
ユースチケット(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

主催:NHK・NHK交響楽団/NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)  
協賛:みずほ証券株式会社/はごろもフーズ株式会社/JFモルガン・アセット・マネジメント株式会社/株式会社明電舎

12/27 火 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:井上道義 オルガン:勝山雅世\* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ  
ダカン/ノエル集 作品2-第10曲「グランジュとデュオ」ト長調\* ラインケン/フーガ短調\*  
バッハ/前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545\*  
ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円  
ユースチケット(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険

第9チケット発売中

\*定期会員は一般料金の10%割引(22日公演をのぞく)  
\*12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

WEBチケットN響(手数料無料)

チケットのご予約はスマートフォンやPCから、  
座席を選んで簡単にチケットが確保できる「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ:N響ガイド TEL (03) 5793-8161 NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955 (22日公演のみ)

\* ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)

\* 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

\* N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

\* やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

\* チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」を必ずお読みください。



## 各地の公演

10/31(月) 7:00pm | NHK音楽祭2022

NHKホール

指揮:パブロ・エラス・カサド  
ラヴェル/組曲「クープランの墓」  
マーラー/交響曲 第5番 嬰ハ短調

主催:NHK/NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:NHKプロモーション音楽祭係 TEL (03) 3468-7736

11/3(木) 5:00pm | 横浜みなとみらいホールリニューアル記念事業  
井上道義指揮 NHK交響楽団 藤木大地(カウンターテナー)

横浜みなとみらいホール 大ホール

指揮:井上道義 カウンターテナー:藤木大地 オルガン:近藤 岳  
J. シュトラウス2世/ワルツ「南国のぼら」作品388  
マーラー/リュッケルトによる5つの歌  
サン・サーンス/交響曲 第3番 ハ短調 作品78(オルガンつき)

主催:横浜みなとみらいホール((公財)横浜市芸術文化振興財団) お問い合わせ:横浜みなとみらいホールチケットセンター TEL (045) 682-2000

11/7(日) 7:00pm | 第179回 NTT東日本 N響コンサート

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林愛実  
ベートーヴェン/序曲「コリオラン」作品62  
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15  
ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

主催:NTT東日本 お問い合わせ:NHKプロモーション TEL (03) 5790-6423

11/26(土) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:レナード・スラットキン ヴァイオリン:レイ・チェン  
ヴォーン・ウィリアムズ/「富める人とラザロ」の5つのヴァリアント  
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ヴォーン・ウィリアムズ/交響曲 第5番 二長調

主催:NHK大阪放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:NHK大阪ホールNHKイベントガイド TEL (06) 6947-5000

---

**11/27(日) 4:00pm | 福岡シンフォニーホールリニューアル記念事業 NHK交響楽団 特別演奏会**

---

**福岡シンフォニーホール**

---

出演者・曲目は11月26日と同じ

主催: (公財)アクロス福岡、「福岡・音楽の秋」実行委員会 お問合せ:アクロス福岡チケットセンター TEL (092) 725-9112

---

---

**1/9(月) 3:00pm | ニューイヤーコンサート NHK交響楽団 上田公演**

---

**サントミュージゼ 大ホール**

---

指揮:沼尻竜典 ソプラノ:砂川涼子\* テノール:宮里直樹\*\*

R. シュトラウス / 歌劇「カプリッチョ」一六重奏(弦楽合奏版)、歌劇「ばらの騎士」組曲

J. シュトラウス2世 / 喜歌劇「こもり」序曲、喜歌劇「ヴェネチアの一夜」作品411—「さあゴンドラにお乗り」\*\*

レハール / 喜歌劇「ジュディッタ」—「私の唇は熱いキスをする」\*

ヨーゼフ・シュトラウス / ワルツ「天体の音楽」作品235

レハール / 喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」\*\*

ジーツィンスキ / わが夢の街ウィーン\*

J. シュトラウス2世 / ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

レハール / 喜歌劇「メリー・ウイダー」—二重唱「とどした唇に」\* \*\*

主催:上田市(上田市交流文化芸術センター) / 上田市教育委員会 お問合せ:上田市交流文化芸術センター TEL (0268) 27-2000

---

---

**1/28(日) 2:00pm | トウガン・ソヒエフ & NHK交響楽団 高崎公演**

---

**高崎芸術劇場 大劇場**

---

指揮:トウガン・ソヒエフ ヴィオラ:アミハイ・グロス

バルトーク / ヴィオラ協奏曲(シェリイ版)

ラヴェル / 「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番

ドビュッシー / 交響詩「海」

主催:高崎芸術劇場(公財)高崎財団 お問合せ:高崎芸術劇場 チケットセンター TEL (027) 321-3900

---

---

**2/19(日) 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)**

---

**愛知県芸術劇場 コンサートホール**

---

指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ピョートル・アンデルシェフスキ\*

ドヴォルザーク / 序曲「フス教徒」作品67

シマノフスキ / 交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」\*

ブラームス / 交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:愛知県芸術劇場 / NHK名古屋放送局 お問合せ:愛知県芸術劇場 TEL (052) 211-7552

---

---

**3/12(日) 2:30pm | NHK交響楽団 厚木公演**

---

**厚木市文化会館 大ホール**

---

指揮:ケリリン・ウィルソン ヴァイオリン:HIMARI

チャイコフスキー / イタリア奇想曲 作品45

パガニーニ / ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6

プロコフィエフ / バレエ「ロメオとジュリエット」組曲 第2番

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問合せ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL (046) 224-9999

---

---

## オーチャード定期

---

Bunkamura オーチャードホール

---

**1/8** **日** **3:30pm**

---

出演者・曲目は1月9日と同じ

---

**3/11** **土** **3:30pm**

---

出演者・曲目は3月12日と同じ

---

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取   加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長   吉原大介

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ (株)アドバンストオールエフデザイン 代表取締役   田中 進	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長   大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長   黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長   伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長   荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO)   浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長   黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   高波博之	・ (株)ウイングツー 代表取締役   福田健二	・ (学)NHK 学園 理事長   篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史		

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役社長 | 根本拓也
- ・(一財)NHK サービスセンター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 石原勉
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター  
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・カンオ計算機(株)  
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄

- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)  
取締役名譽会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)  
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)  
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑

- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス  
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館  
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック  
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫

- ・(株)セノン  
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)  
代表取締役社長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 稲垣精二
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一郎
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
三宅 潔
- ・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通  
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武
- ・(株)TOKAI ホールディングス  
代表取締役社長 | 小栗勝男
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)  
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村  
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)  
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)  
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・(-財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日東紡績(株)  
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・日本ガン(株)  
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)  
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)  
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会 共済会  
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニッポ  
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所  
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・町田優子
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 高島 誠
- ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)  
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積

- ・(学)武蔵野音楽学園  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼  
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン  
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
- ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120



# NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督：シャルル・デュトラ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナーヂ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

ゲスト・アシスタント・コンサートマスター：郷古 廉

## 第1ヴァイオリン

- 青木 調  
宇根京子  
大鹿由希  
□倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
村尾隆人  
○山岸 努  
○横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎  
◎森田昌弘  
木全利行  
齋藤麻衣子  
□嶋田慶子  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦  
矢津将也  
山田慶一

横山俊朗  
米田有花

## ヴィオラ

- ◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小野 聡  
小島茂隆  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
# 御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

- ◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
三戸正秀  
中 実徳  
○西山健一  
○藤村俊介  
宮坂拓志  
村井 将  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

- ◎吉田 秀  
☆市川雅典  
☆西山真二  
稲川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
佐川裕昭  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

- ◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真步  
菅原 潤  
中村淳二

## オーボエ

- ◎青山聖樹  
◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

- ◎伊藤 圭  
◎松本健司  
# 山根孝司  
和川聖也

## ファゴット

- ◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

- ◎今井仁志  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
野見山和子

## トランペット

- ◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

- ◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行  
吉川武典

## テューバ

- 池田幸広

## ティンパニ

- ◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

- 石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

- 早川りさこ

## ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉  
黒川大亮

## ライブラリアン

- 沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

# 曲目解説執筆者

## 岡田暁生(おかだ あけお)

京都大学人文科学研究所教授。専門は19世紀から20世紀初頭の西洋音楽。著書に『音楽の危機——《第九》が歌えなくなった日』『音楽と出会う——21世紀的つきあい方』『西洋音楽史』『リヒャルト・シュトラウス』(作曲家・人と作品シリーズ)など、共著書に『すごいジャズには理由がある』など。

## 小林ひかり(こばやし ひかり)

北欧音楽研究家。大阪大学大学院文学研究科(音楽学)博士後期課程修了。訳書にアーリング・ダール著『グリーグ——その生涯と音楽』、論文に「近代日本におけるグリーグの音楽の受容」など。

## 堀 朋平(ほり ともへい)

国立音楽大学講師。博士(文学)。専門はシューベルトを中心とした19世紀音楽、音楽思想史。著書に『〈フランツ・シューベルト〉の誕生——喪失と再生のオデュッセイ』、訳書にヒンリヒセン著『フランツ・シューベルト——あるリアリストの音楽的肖像』、共訳書にボンス著『ベートーヴェン症候群——音楽を自伝として聴く』など。住友生命いずみホール音楽アドバイザー。

(五十音順、敬称略)

## Information

### 訃報

当団元首席コントラバス奏者(1974年4月入団)で団友の西田直文(にしだ なおふみ)氏が2022年7月9日に逝去されました。享年73。謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 『Philharmony』 2022年9月号 出演者変更の お知らせ

9月定期公演Cプログラム(NHKホール)9/16[金]、17[土]「開演前の室内楽」で、当初出演予定の渡邊方子(チェロ)に代わり西山健一(チェロ)が出演いたしました。

### お詫びと訂正

本誌『Philharmony』9月号にて誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

27頁プログラムノート導入4行目

[誤] 3楽章すべて

[正] 楽章すべて

31頁エヴァ・スタイナー氏のプロフィール8～9行目

[誤] 同団の音楽監督ファビオ・ルイーゼ

[正] 同団の首席指揮者ファビオ・ルイーゼ

33頁R.シュトラウス歌劇「ばらの騎士」組曲の楽器編成3行目

「サスペンデッド・シンバル」を削除

65頁エヴァ・スタイナー氏の英文プロフィール2行目

[誤] Fabio Luisi is Music Director

[正] Fabio Luisi is Principal Conductor

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRコードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

Guest Assistant Concertmaster: Sunao Goko

## 1st Violins

- Shirabe Aoki  
Kyoko Une  
Yuki Oshika  
□ Ryota Kuratomi  
Ko Goto  
Tamaki Kobayashi  
Toshihiro Takai  
Yuki Naoi  
Yumiko Nakamura  
Takao Furihata  
○ Hiroyuki Matsuda  
Nana Miyagawa  
Ryuto Murao  
○ Tsumotomu Yamagishi  
○ Masamichi Yokoshima  
○ Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya  
◎ Masahiro Morita  
Toshiyuki Kimata  
Maiko Saito  
□ Keiko Shimada  
○ Atsushi Shirai  
○ Akiko Tanaka  
Kirara Tsuboi  
Yosuke Niwa  
Kazuhiko Hirano  
Yoko Funaki  
Kenji Matano  
○ Haruhiko Mimata  
Masaya Yazu  
Yoshikazu Yamada  
Toshiro Yokoyama  
Yuka Yoneda

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki

- ◎ Junichiro Murakami  
☆ Shotaro Nakamura  
Satoshi Ono  
Shigetaka Obata  
□ Gentaro Sakaguchi  
Mayumi Taniguchi  
Hiroto Tobisawa  
○ Hironori Nakamura  
Naoyuki Matsui  
Rachel Yui Mikuni  
# Yuya Minorikawa  
○ Ryo Muramatsu  
Yuji Yamada

## Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto  
◎ Ryoichi Fujimori  
Hiroya Ichi  
Yukinori Kobatake  
Masahide Sannoh  
Miho Naka  
○ Ken'ichi Nishiyama  
○ Shunsuke Fujimura  
Hiroshi Miyasaka  
Yuki Murai  
○ Shunsuke Yamanouchi  
Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida  
☆ Masanori Ichikawa  
☆ Shinji Nishiyama  
Eiji Inagawa  
○ Jun Okamoto  
Takashi Konno  
Hiroaki Sagawa  
Tatsuro Honma  
Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai  
◎ Hiroaki Kanda  
Maho Kajikawa  
Jun Sugawara  
Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Satoki Aoyama  
◎ Yumi Yoshimura  
Shoko Ikeda  
Izumi Tsuboike  
Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito  
◎ Kenji Matsumoto  
# Takashi Yamane  
Seiya Wakawa

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin  
◎ Kazusa Mizutani  
Yuki Sato  
Keiko Sugawara  
Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai  
Naoki Ishiyama  
Yasushi Katsumata  
Hiroshi Kigawa  
Kazuko Nomiya

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto

- ◎ Tomoyuki Hasegawa  
Tomoki Ando  
Eiji Yamamoto

## Trabones

- ◎ Hikaru Koga  
◎ Mikio Nitta  
Ko Ikegami  
Hiroyuki Kurogane  
Takenori Yoshikawa

## Tuba

- Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu  
◎ Shoichi Kubo

## Percussion

- Tatsuya Ishikawa  
Hidemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

- Risako Hayakawa

## Stage Manager

- Masaya Tokunaga  
Daisuke Kurokawa

## Librarian

- Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

---

**PROGRAM**

---

**A****Concert No.1965****NHK Hall****October****15 (Sat) 6:00pm****16 (Sun) 2:00pm**

---

**conductor****Herbert Blomstedt****concertmaster****Fuminori Maro Shinozaki**

---

**Gustav Mahler****Symphony No. 9 D Major [80']**

- I Andante comodo
- II Im Tempo eines gemächlichen Ländlers.  
Etwas täppisch und sehr derb

- III Rondo-Burleske:  
Allegro assai. Sehr trotzizig
- IV Adagio: Sehr langsam  
und noch zurückhaltend

- There will be no intermission in this concert.
  - All performance durations are approximate.
- 

**Artist Profile**

---

**Herbert Blomstedt, conductor**

Born in 1927, now reaching his mid-nineties, Herbert Blomstedt is literally the conductor enjoying the strongest bond with the NHK Symphony Orchestra. Since their first collaboration in 1981, he has returned to the orchestra's podium frequently, with rarely longer than a two year interval. Needless to say, with a popular repertoire centered on the German and Austrian sphere, in recent years, he has actively been

taking up works by Northern European composers (Grieg and Nielsen will be featured in Program B in October). The collaboration with the NHK Symphony Orchestra, as both sides deeply know each other's music, leaves a profound impression engraved in the hearts of audience, thus making a legendary performance each time they work together.

He was born to a minister father and a pianist mother, and started his career as a conductor in Northern Europe. As a devout Seventh-day Adventist and music missionary, he became Chief Conductor of the Staatskapelle Dresden in 1975, a position which had remained vacant for years, and led the orchestra to build a golden age, and at the same time, his fame became known to the world. Disapproving of the former East German government's involvement in art, he assumed the position of Music Director of the San Francisco Symphony Orchestra in 1985 (-1995), then led the NDR Sinfonieorchester (presently NDR Elbphilharmonie Orchester) (1996-1998), and the Gewandhausorchester Leipzig (1998-2005). After that, he has

distanced himself from taking a fixed position, however, he has continued appearing with world's most renowned orchestras including the Berliner Philharmoniker and the Wiener Philharmoniker. The NHK Symphony Orchestra awarded him the title of Honorary Conductor in 1986 and Honorary Conductor Laureate in 2016.

[Herbert Blomstedt by Mitsunori Eto, music critic]

---

## Program Note | Kumiko Nishi

---

**Gustav Mahler (1860–1911)**

# Symphony No. 9 D Major

Mahler shrunk from the “Curse of the Ninth,” as Beethoven passed away after the completion of his Ninth Symphony and Bruckner died while still working on his Ninth. And hence, our superstitious composer avoided this by labeling his virtual ninth, *Das Lied von der Erde* (*The Song of the Earth*). However, he couldn't break the jinx when his next one, this time called No. 9, became the last symphony he completed before his demise in May 1911.

No. 9 was written mainly in the summer of 1909. Back in 1907, Mahler's elder daughter died of an illness at age four and he was diagnosed with a fatal cardiac condition. These circumstances and his fear of the Curse of the Ninth have helped his Ninth to be associated with “farewell” and “death.” One of the work's features is the abundance of musical quotations from works by Mahler and others, which supplies this rich symphony with a multilayered linkage of meanings.

The four movements form the untraditional tempo scheme slow-fast-fast-slow. The mighty first movement has a short introduction where cellos and a horn give the arrhythmical rhythmic motif which would return throughout the work. Soon afterwards the second violins introduce the main theme with a short-winded descending motif. Mahler self-quotes this motif from his song *Der Abschied* (*The Farewell*) from *Das Lied von der Erde* (*The Song of the Earth*). It is also thought to have a relation to Beethoven's Piano Sonata No. 26 *Das Lebewohl* (*The Farewell*).

The second movement alternates three dances. The opening one is a “ländler,” a Bavarian and Austrian rural dance. Headed “very defiant,” the third movement is a musical burlesque full of sarcastic vociferance. The final movement starts with the grievous unison theme on violins, suggestive of the slow movement of Bruckner's Ninth. Towards the end, we hear the melody of Mahler's *Nun will die Sonn' so hell aufgeh'n* (*Now Will the Sun Rise as Brightly*) from the cycle *Kindertotenlieder* (*Songs on the Death of Children*). The elegiac finale is ended by only strings in whispers at lowest speed so the music is “dying away,” as Mahler indicates.

---

### Kumiko Nishi

---

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

A

15 & 16, OCT. 2022



## PROGRAM

B

Concert No.1967

Suntory Hall

October

26 (Wed) 7:00pm

27 (Thu) 7:00pm

conductor	Herbert Blomstedt   for a profile of Herbert Blomstedt, see p. 36
piano	Olli Mustonen
soprano	Mao Morita*
baritone	Takashi Aoyama*
concertmaster	Kei Shirai

**Edvard Grieg**  
**Piano Concerto A Minor Op.16**  
 [30']

- I Allegro molto moderato
- II Adagio
- III Allegro moderato molto e marcato

— intermission (20 minutes) —

**Carl Nielsen**  
**Symphony No. 3 Op. 27,**  
***Sinfonia espansiva*\* [39']**

- I Allegro espansivo
- II Andante pastorale
- III Allegretto un poco
- IV Finale: Allegro

- There will be no intermission in this concert.  
 - All performance durations are approximate.

## Artist Profile

## Olli Mustonen, piano



Olli Mustonen has his own artistic belief as an all-round musician, pouring passion and energy into piano performances, composition and conducting. He was born in Helsinki, Finland, and started learning piano, harpsichord and composition at the age of five. He studied piano under Ralf Gothóni and Eero Heinonen, and composition under Einojuhani Rautavaara. He started garnering attention as a new-generation piano

virtuoso for his clear and transparent sound, sharp technique and intellectual rendition from the mid-1980s. In recent years, he has recorded many works including Beethoven and Prokofiev, in which his well-honed expression reflecting his perspective as a composer bears fruit. His compositions are not confined to piano and chamber music pieces, but include

orchestral and vocal works, as well. At the same time, he has been ardently conducting orchestras, and since 2021, has been serving as Artistic Director and Principal Conductor of the Turku Philharmonic Orchestra. He has frequently visited Japan since 1990, and first worked with the NHK Symphony Orchestra as piano soloist performing Rachmaninov's Piano Concerto No. 3 in 1991. In 2009, he conducted the orchestra from the keyboard playing Beethoven, and conducted his own work and that of Sibelius. In his long-awaited appearance this autumn he will perform Grieg to the eager anticipation of the audience, in a Northern European program under the baton of Herbert Blomstedt.

[Olli Mustonen by Takaakira Aosawa, music critic]

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

### Edvard Grieg (1843–1907)

---

## Piano Concerto A Minor Op.16

A father of Norwegian classical music, Grieg started piano lessons at home before studying abroad at the Leipzig Conservatory. Being trained by the pianist Ignaz Moscheles, a champion of Beethoven, and becoming acquainted with works by Mendelssohn, Chopin and Schumann there had an influence on the young student. Later in the early 1860s, he stayed in Copenhagen to study under the Danish composer Niels Gade who would also teach Nielsen (described below).

In Leipzig, Grieg heard Clara Schumann playing her husband's Piano Concerto in A minor. The Norwegian composer since avowed himself to be a great admirer of the work. While some similarities have been pointed out between the two men's concertos, especially the central key and how they start, Grieg's is surely original particularly in the treatment of folkish idioms. An excellent pianist, Grieg wrote it in his mid-twenties. After its 1869 premiere in Copenhagen brought him a first reputation as composer, he revised it several times over three decades. It became, unsurprisingly one of the most celebrated pieces of piano literature.

The first movement begins with a timpani roll crescendo followed by the dramatic entry of the soloist playing a cascade of falling octaves. Then woodwinds sing the idyllic first theme. The meditative slow movement is opened by strings utilizing mutes, a device to make a softer sound. Without pause, the finale in sonata rondo form gives a short, brilliant passage by the pianist, who then introduces the stomping main theme recalling the "halling," a Norwegian acrobatic folk dance. The lyrical second theme appears on the flute solo. In the last stage, the time switches from triple to quadruple (*Andante maestoso*) to close the concerto magnificently.

### Carl Nielsen (1865–1931)

---

## Symphony No. 3 Op. 27, *Sinfonia espansiva*

Born in the Danish Island of Funen in 1865, Nielsen is considered today one of the most essential Nordic composers. However, he didn't gain the genuine international fame in his lifetime as contrasted with Jean Sibelius, the same age as him, and their senior Grieg whose

B

26 & 27, OCT, 2022

music impinged on early works of Nielsen. He studied composition under Niels Gade, Grieg's teacher, at the Royal Danish Academy of Music in Copenhagen. While composing, he started his career as an orchestral violinist and later served as a conductor with the Royal Theatre in the capital and the Orchestra of the Copenhagen Music Society.

Nielsen left us a vast catalogue including six unconventional, inventive, beautiful symphonies (premiered on his native soil between 1894 and 1925), concertos, two operas and a profusion of songs and choral works. The pre-World War I work, his Third Symphony was written in 1910-1911 and first performed in 1912 under his own baton. The uniqueness more than anything of this unique symphony is the presence of human voices (described below) in the slow second movement.

The work's subtitle comes from the first movement's tempo and performing indication "Allegro espansivo (expansive)". The way it begins is already unique and astonishing, as the orchestra gives consecutively a wallop of the A note twenty-six times. The first sonata theme immediately follows it evoking a valiant waltz. In contrast, woodwinds gently state the tuneful second theme. The "expansive" character shifts to "pastorale (pastoral)" tone when the second movement comes. Here we hear the distant, paradisiacal vocalise (wordless song) by soprano and baritone soloists. After the scherzo-like third movement, the finale revives the "expansive" character. It opens with the hymnlike majestic theme sung by violins and clarinets in unison. The symphony concludes in triumph with the powerful A note, reminiscent of its outset.

**Kumiko Nishi**

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 37

## PROGRAM

C

Concert No.1966

NHK Hall

October

21 (Fri) 7:30pm

22 (Sat) 2:00pm

conductor

Herbert Blomstedt | for a profile of Herbert Blomstedt, see p. 36

concertmaster

Kei Shirai

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 21st from 6:45pm / Saturday 22nd from 1:15pm

Masahiro Morita(vn.), Kirara Tsuboi(vn.), Rachel Yui Mikuni(va.), Yuki Murai(vc.)

Schubert / String Quartet No. 6 D Major D. 74—3rd and 4th Movement

\* You may enter and leave as you please during the performance. \* Enjoy chamber music from your own seat.

## Franz Schubert

### Symphony No. 1 D Major D. 82

[29']

- I Adagio – Allegro vivace
- II Andante
- III Menuetto: Allegro – Trio
- IV Allegro vivace

## Franz Schubert

### Symphony No. 6 C Major D. 589

[27']

- I Adagio – Allegro
- II Andante
- III Scherzo: Presto – Più lento
- IV Allegro moderato

- There will be no intermission in this concert.
- All performance durations are approximate.

## Program Notes | Kumiko Nishi

### Franz Schubert (1797–1828)

## Symphony No. 1 D Major D. 82

By and large, geniuses build on their gift while following the model of their brilliant forerunners. From this angle the first symphonies of great composers are commonly intriguing, as the works reveal their unmistakable musical identity but also reflect diverse influences they owe to their predecessors.

Born in Vienna in 1797, Schubert was a precocious musical genius. His family introduced him to music before he enrolled in 1808 in the Stadtkonvikt (imperial seminary), where he studied composition under the Italian composer Antonio Salieri. While in school, Schubert

became familiar with Classical works by Haydn, Mozart and Beethoven, and he performed in and conducted the seminary's student orchestra which presumably premiered this Symphony D. 82 in private in October 1813 just before he left the school.

D. 82 is the extant first symphony that Schubert completed at the mere age of 16. It shows influences of the First Viennese School in respect of form and style, particularly of Haydn. Indeed, the first movement has a majestic introduction dominated by dotted rhythms, reminiscent of the opening of Haydn's *London* Symphony No. 104 (1795). The vivacious main section is in sonata form. Its mellifluous, lyrical second theme introduced by strings is sheer Schubertian. The next slow movement, in systematic A-B-A-B-A form, is marked by creative harmonic shifts which are, again, very Schubertian. Then comes next the Classical minuet movement. Its central Trio section reminds us of "ländler", a Bavarian and Austrian peasant dance of which Schubert himself later was to write many. The sunny finale in sonata form has an Italian vigor frequently associated with the style of Gioachino Rossini (1792-1868). From the outset, it is urged on by virtually restless eighth notes on strings to reach the elated ending.

## Franz Schubert

---

### Symphony No. 6 C Major D. 589

Schubert lived in relative obscurity. In all his life, not one of his symphonies had the opportunity to be officially heard. And D. 589 was the first one which was publicly premiered on December 14th, 1828, within a month after he died at the young age of 31. For the concert, Schubert had originally dedicated his Symphony in C major D. 944, known today as *The Great*, to the Gesellschaft der Musikfreunde (Musikverein Wien). However, they replaced the gigantic work, which was hard to perform with the smaller Sixth in the same key. The posthumous byname of the latter, *Little C major*, is certainly useful to distinguish it from *The Great* in duration, but the two have their own musical value and charm.

Schubert started to pen the Sixth in October 1817 after writing the famous songs *Der Tod und das Mädchen* (*Death and the Maiden*) and *Die Forelle* (*The Trout*) in early 1817. Completed in February 1818, the symphony was privately performed the same year in the home of his friend and violinist Otto Hatwig in Vienna.

With the stately opening of the first movement, Schubert noticeably pays homage to his idol Beethoven, probably to the elder man's Symphony No. 7 premiered in 1813. In the Allegro main section, Schubert let woodwinds state both the hopping-around first theme and the syncopated second theme. This carefree movement has an unexpected coda with an uproarious galloping dash. In the slow movement, the serene section alternates with the almost aggressive section full of triplets. The next is not a Classical standard Minuet movement, but the first Scherzo movement that Schubert adopted following Beethoven who invented this new symphonic arrangement. The smiling, eventful finale begins quietly with the first sonata theme on strings. The three other themes include one that is episodic and march-like. The brilliant coda concludes this "little" symphony epically and energetically.

---

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 37

# The Subscription Concerts Program 2022–23

2022 10	A	Concert No. <b>1965</b>	<b>Mahler</b> Symphony No. 9 D Major	Ordinary	Youth
		<b>October</b> 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
		NHK Hall			
2022 11	B	Concert No. <b>1967</b>	<b>Grieg</b> Piano Concerto A Minor Op.16 <b>Nielsen</b> Symphony No. 3 Op. 27, <i>Sinfonia espansiva</i>	Ordinary	Youth
		<b>October</b> 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm	Herbert Blomstedt, conductor Olli Mustonen, piano	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
		Suntory Hall			
2022 11	C	Concert No. <b>1966</b>	<b>Schubert</b> Symphony No. 1 D Major D. 82 <b>Schubert</b> Symphony No. 6 C Major D. 589	Ordinary	Youth
		<b>October</b> 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		NHK Hall			
2022 11	A	Concert No. <b>1968</b>	<b>Ifukube</b> <i>Sinfonia Tapkaara</i> <b>Shostakovich</b> Symphony No. 10 E Minor Op. 93	Ordinary	Youth
		<b>November</b> 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm	Michiyoshi Inoue, conductor	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
		NHK Hall			
2022 11	B	Concert No. <b>1970</b>	<b>The 150th Anniversary of Vaughan Williams's Birth</b> <b>Vaughan Williams</b> Five Variants of <i>Dives and Lazarus</i> <b>Mendelssohn</b> Violin Concerto E Minor Op. 64 <b>Vaughan Williams</b> Symphony No. 5 D Major	Ordinary	Youth
		<b>November</b> 23 (Wed) 7:00pm 24 (Thu) 7:00pm	Leonard Slatkin, conductor Ray Chen, violin	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500
		Suntory Hall			
2022 11	C	Concert No. <b>1969</b>	<b>Copland</b> <i>Appalachian Spring</i> , ballet (complete) <b>Copland</b> <i>Rodeo</i> , ballet (complete)	Ordinary	Youth
		<b>November</b> 18 (Fri) 7:30pm 19 (Sat) 2:00pm	Leonard Slatkin, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		NHK Hall			
2022 12	A	Concert No. <b>1971</b>	<b>Wagner</b> <i>Wesendonck Lieder</i> <b>Bruckner</b> Symphony No. 2 C Minor (First Version / 1872)	Ordinary	Youth
		<b>December</b> 3 (Sat) 6:00pm 4 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Mihoko Fujimura, mezzo soprano	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
		NHK Hall			
2022 12	B	Concert No. <b>1973</b>	<b>Glinka</b> <i>Ruslan and Lyudmila</i> , opera – Overture <b>Rakhmaninov</b> Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18 <b>Dvořák</b> Symphony No. 9 E Minor Op. 95, <i>From the New World</i>	Ordinary	Youth
		<b>December</b> 14 (Wed) 7:00pm 15 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Hisako Kawamura, piano	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
		Suntory Hall			
2022 12	C	Concert No. <b>1972</b>	<b>Mozart</b> Symphony No. 36 C Major K. 425, <i>Linz</i> <b>Mendelssohn</b> Symphony No. 3 A Minor Op. 56, <i>Scottish</i>	Ordinary	Youth
		<b>December</b> 9 (Fri) 7:30pm 10 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		NHK Hall			



**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023  
01

**A** Concert No. **1974**  
**January**  
14 (Sat) 6:00pm  
15 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Brahms** Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83  
**Beethoven** Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60

Tugan Sokhiev, conductor  
Haochen Zhang, piano

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

**B** Concert No. **1976**  
**January**  
25 (Wed) 7:00pm  
26 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Bartók** Viola Concerto (Serly version)  
**Ravel** *Daphnis et Chloé*, suite Nos. 1 & 2  
**Debussy** *La mer*, three symphonic sketches

Tugan Sokhiev, conductor  
Amihai Grosz, viola

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500

**C** Concert No. **1975**  
**January**  
20 (Fri) 7:30pm  
21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Rakhmaninov** *The Rock*, fantasy, Op. 7  
**Tchaikovsky** Symphony No. 1 G Minor Op. 13, *Winter Dreams*

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

2023  
02

**A** Concert No. **1977**  
**February**  
4 (Sat) 6:00pm  
5 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Hisatada Otaka** Cello Concerto A Minor Op. 20  
**Panufnik** *Katyn's Epitaph*  
**Lutosławski** Concerto for Orchestra

Tadaaki Otaka, conductor  
Dai Miyata, cello

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

**B** Concert No. **1979**  
**February**  
15 (Wed) 7:00pm  
16 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Dvořák** *Hussite Overture*, Op. 67  
**Szymanowski** Symphony No. 4 Op. 60, *Symphonie concertante*\*  
**Brahms** Symphony No. 4 E Minor Op. 98

Jakub Hruša, conductor **Piotr Anderszewski**, piano\*  
Sun. 19 February The Subscription Concert Series in Aichi Prefectural Art Theater

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

**C** Concert No. **1978**  
**February**  
10 (Fri) 7:30pm  
11 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Bernstein** Symphonic Dances from *West Side Story*  
**Rakhmaninov** Symphonic Dances Op. 45

Jakub Hruša, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

2023  
04

**A** Concert No. **1980**  
**April**  
15 (Sat) 6:00pm  
16 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**R. Strauss** Symphonic Fragments from *Josephs Legende*  
**R. Strauss** *An Alpine Symphony* Op. 64

Paavo Järvi, conductor

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

**B** Concert No. **1982**  
**April**  
26 (Wed) 7:00pm  
27 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Sibelius** Symphony No. 4 A Minor Op. 63  
**Rakhmaninov** Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43\*  
**Tchaikovsky** *Francesca da Rimini*, Symphonic fantasy after Dante, Op. 32

Paavo Järvi, conductor  
Marie-Ange Nguci, piano\*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

**C** Concert No. **1981**  
**April**  
21 (Fri) 7:30pm  
22 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Roussel** Sinfonietta for String Orchestra Op. 52  
**Poulenc** Sinfonietta  
**Ibert** Divertissement for Chamber Orchestra

Paavo Järvi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

**Program C**

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.  
 - There may be a commentary about works, preceding performances.  
 - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

**2023  
05**

<b>A</b>	Concert No. <b>1983</b>	<b>Rakhmaninov</b> Songs Op. 34 – <i>The Raising of Lazarus</i> (arr. Shimono), <i>Vocalise</i> <b>Gubaidulina</b> <i>Offertorium</i> * <b>Dvořák</b> Symphony No. 7 D Minor Op. 70	<b>Ordinary</b>	<b>Youth</b>
	<b>May</b> 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Tatsuya Shimono, conductor Baiba Skride, violin*	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
NHK Hall				

<b>B</b>	Concert No. <b>1985</b>	<b>Haydn</b> Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, <i>The Bear</i> <b>Mozart</b> Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447 <b>Beethoven</b> Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	<b>Ordinary</b>	<b>Youth</b>
	<b>May</b> 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Nobuaki Fukukawa, horn	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall				

<b>C</b>	Concert No. <b>1984</b>	<b>Saint-Saëns</b> Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, <i>The Egyptian</i> <b>Franck</b> Symphony D Minor	<b>Ordinary</b>	<b>Youth</b>
	<b>May</b> 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Pascal Rogé, piano	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall				

**2023  
06**

<b>A</b>	Concert No. <b>1986</b>	<b>Prokofiev</b> <i>The Love for Three Oranges</i> Op. 33bis, symphonic suite <b>Prokofiev</b> Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16 <b>Casella</b> Symphonic Fragments from <i>La donna serpente</i> [Japan Première]	<b>Ordinary</b>	<b>Youth</b>
	<b>June</b> 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Behzod Abduraimov, piano* *Changed from initially scheduled.	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
NHK Hall				

<b>B</b>	Concert No. <b>1988</b>	<b>Bach / Respighi</b> <i>Three Chorales</i> <b>Respighi</b> <i>Concerto gregoriano</i> * <b>Rakhmaninov</b> Symphony No. 1 D Minor Op. 13	<b>Ordinary</b>	<b>Youth</b>
	<b>June</b> 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Sayaka Shoji, violin*	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500
Suntory Hall				

<b>C</b>	Concert No. <b>1987</b>	<b>Shostakovich</b> Symphony No. 8 C Minor Op. 65	<b>Ordinary</b>	<b>Youth</b>
	<b>June</b> 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall				

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

# ともに創る未来へ。-Challenge SEITOKU-

かけがえのない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限りない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越する挑戦で、新しい価値を創る力を。

## 「新しい価値を創造する」学際的なプログラム Field Linkage (フィールドリンケージ)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムが始動。  
多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を  
育みます。

## 新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ Business Field Linkage (ビジネスフィールドリンケージ)

高度な専門性を実社会で活かすために、ビジネスの最前線やDX・AIの活用を  
実践的に学ぶプログラムが本格始動。  
先見的な視点とスキル、協働的リーダーシップを発揮し、課題解決へと導く、  
新時代の女性リーダーを育成します。

新しい時代に挑戦する「教育学部」がスタート!

## 新時代を生きる人を育てる 女性総合大学

実就職率  
全国女子大学

1位

の教育力

(97.4% 2022年卒業生)  
※卒業生100名以上の女子大実就職率  
2022年大学通信調べ



SEITOKU

自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

# 聖徳大学

# 聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)  
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学  
音楽学部 (女子)

聖徳大学大学院  
音楽文化研究科  
[博士前期・後期課程] (共学)

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校  
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校  
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園  
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園  
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

# NHK 音楽祭

MUSIC FESTIVAL

～名曲と出会う場所～

## 2022

MEET the CLASSICS

### 特別公演

スペインの俊英がN響と挑む、マーラー絶頂期の傑作。  
豊かな色彩と繊細なオーケストレーションが光る  
ラヴェルも必聴

絶大な人気を誇る「ドラゴンクエスト」と  
ブラームスの交響曲——  
都響ならではのコントラストに、メルクルが挑む！



© Jean-Baptiste Violot



© Dario Acosta



写真提供：東京都交響楽団



写真提供：NHK 交響楽団

## 東京都交響楽団

10月19日(水) 19:00開演

指揮：準・メルクル

すぎやまこういち：交響組曲「ドラゴンクエスト」

スペシャルセレクション

ロトのテーマ(III) 過ぎ去りし時を求めて(XI) ほか

ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 作品68

## NHK交響楽団

10月31日(月) 19:00開演

指揮：パブロ・エラス・カサド

ラヴェル：組曲「クーランの墓」

マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調

共催：NHK交響楽団／協賛：岩谷産業

## NHKホール

好評販売中

入場料 (消費税込)

公演	公演日	開演	終演	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-25席
東京都交響楽団	10/19(水)	19:00	21:00	8,000	7,000	6,000	5,000	4,000	3,000	1,500
NHK交響楽団	10/31(月)	19:00	21:00	13,000	11,000	9,000	7,000	5,000	3,000	1,500

●お問い合わせ

ハローダイヤル TEL.050-5541-8600 / 9:00～20:00(無休)

NHKホームページ <http://www.nhk.or.jp/event/>

NHKプロモーション音楽祭係

TEL.03-3468-7736 (11:00～17:00 平日)



主催：NHK、NHKプロモーション

協賛：Canon キヤノンマーケティングジャパン TOKAIグループ MIZUHO みずほ銀行





YOKOHAMA  
OTOMATSURI  
横浜音祭り

横浜みなとみらいホールリニューアル記念事業

# 井上道義 指揮

# NHK交響楽団

## 藤木大地

(カウンターテナー)



©hiromasa

2022年 **11/3** (木・祝)

17:00開演(16:20開場)

横浜みなとみらいホール 大ホール



©藤本史昭

©Yurika Takagi

全席指定

S席8,500円 / A席6,500円 / B席 4,500円

発売中

学生・65歳以上の方 / 障がい者手帳等をお持ちの方\*は  
各席種5%割引

(\* = 横浜みなとみらいホールチケットセンター電話 / 窓口 (10/20~)のみ取扱い)

チケット取扱い・お問合せ

◎チケットセンターWEB <http://minatomirai.pia.jp/>

◎横浜みなとみらいホールチケットセンター 045-682-2000

(電話予約 月~木曜11:00~16:00 / 祝日・休業日を除く)

※チケットセンターは10月20日より通常営業いたします。

(電話 10:00~17:00 / 窓口11:00~19:00 休館日・保守点検日を除く)

◎チケットぴあ ◎e+ (イープラス) ◎ローソンチケット

※未就学のお子さまの入場はご遠慮ください。

※車椅子でお越しの方は、事前にお電話で横浜みなとみらいホールチケットセンターまでご連絡ください。

主催: 横浜みなとみらいホール(公益財団法人横浜芸術文化振興財団) 共催: 横浜アーツフェスティバル実行委員会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



©T.Tairadate

J. シュトラウスII世  
ワルツ《南国のバラ》Op. 388

G. マーラー  
リュッケルトの詩による5つの歌曲

C. サン＝サーンス  
交響曲第3番 ハ短調 Op. 78  
「オルガン付き」

近藤 岳 横浜みなとみらいホール ホールオルガニスト

YOKOHAMA  
MINATOMIRAI  
HALL

骨董・古美術月刊誌

# 目の眼

ME NO ME  
SINCE 1977



ヒスイ製勾玉（環玦）  
古墳時代 長 3.6 cm  
個人蔵



10月号

美と祈りの誕生

古代日本と東アジアの玉

11月号

国宝再見

東京国立博物館の150年

毎月15日発売 | 1,320円税込

最新号 WEB 無料公開中

[menomeonline.com](http://menomeonline.com)





# 風が音楽になる



TN-4D-SE/WA (ウォルナット)

森で耳を澄ます。

木々の間を遊ぶ風は、やがて心に響く音楽になる。

回転しているレコードに針を落とす。

聞こえてくるのは思い出の曲でしょうか。

レコードの音も、なぜか心に響きます。

時にやさしく、時に突き刺さるように。

音楽がデジタルになった今でも、無くしてはいけないものがあるのです。

ピアノブラック



TN-4D-SE

ボーカルやソロ楽器をしっかりと聴かせる  
アメリカSUMIKO社製カートリッジ搭載  
ダイレクトドライブ・ターンテーブル

チェリー



TN-3B-SE

クリアでワイドレンジ  
オーディオテクニカAT-VM95Eを標準搭載  
ベルトドライブ・ターンテーブル

ウォルナット



TN-400BT-SE Bluetooth

置き場所を選ばない本格派  
Bluetooth®トランスミッター搭載  
ベルトドライブ・ターンテーブル

## TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。

掲載製品は全てオープンプライスです。

製品の詳細はこちらのQRコードからまたは [teac.jp/jp](http://teac.jp/jp)

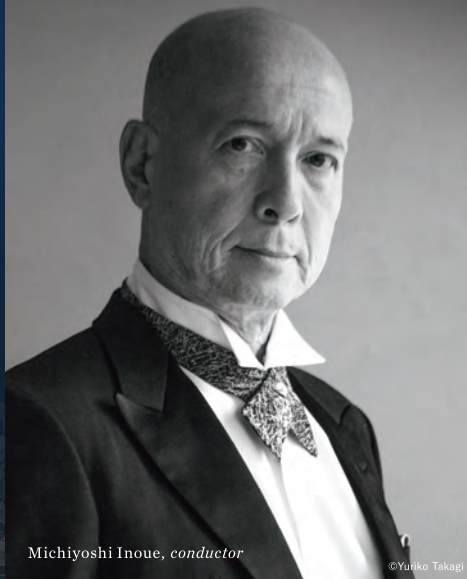


かんぽ生命 presents

NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

# N響 第九

Special Concert



Michiyoshi Inoue, conductor

©Yuriko Takagi

2022年12月27日(火) 7:00pm  
サントリーホール

Tuesday, December 27, 2022 Suntory Hall

指揮：井上道義

ソプラノ：クリスティーナ・ランツハマー

メゾ・ソプラノ：藤村実穂子

テノール：ベンヤミン・ブルンス

バス：マシュー・ローズ

合唱：新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ  
New National Theatre Chorus/ Tokyo Opera Singers, choruses



©Marco Baggiani

Christina Landshamer,  
soprano



©R&G Photography

Mihoko Fujimura,  
mezzo soprano



©Sara Schlangen

Benjamin Bruns,  
tenor



©Lena Kern

Matthew Rose,  
bass

## Program

ダカン／ノエル集 作品2－第10曲「グランジュとデュオ」ト長調  
Daquin *Nouveau Livre de Noël* for Organ Op. 2  
—X. *Grand Jeu et Duo* G Major

ラインケン／フーガ ト短調  
Reincken Fugue G Minor

バッハ／前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545  
Bach Prelude and Fugue C Major BWV545

オルガン：勝山 雅世 Masayo Katsuyama, organ

ベートーヴェン

## 交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

料金(税込)	S ¥17,500	A ¥14,500	B ¥11,500	C ¥8,000
ユースチケット (25歳以下)	S ¥8,750	A ¥7,250	B ¥5,750	C ¥4,000

発売開始 10月10日(月・祝) 11:00am  
N響定期会員先行発売 10月5日(水) 11:00am  
[定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ：N響ガイド 03-5793-8161  
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

進化するぬくもり。

主催：NHK交響楽団  
特別協賛：  
株式会社かんぽ生命保険



かんぽ生命



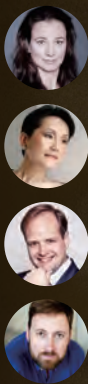
NHK交響楽団「ベートーヴェン」第9「演奏会」  
ベートーヴェン／交響曲第9番ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony  
No. 9 D Minor Op.125, Choral  
Michiyoshi Inoue, conductor  
Christina Landshamer, soprano  
Mihoko Fujimura, mezzo soprano  
Benjamin Bruns, tenor  
Matthew Rose, bass  
New National Theatre Chorus, chorus  
Tokyo Opera Singers, chorus

主催：NHK／NHK交響楽団  
主催(22日)：NHK／NHK厚生文化事業団  
協賛：みずほ証券株式会社／はごろもアース株式会社／  
JPモルガンアセット・マネジメント株式会社 株式会社明電舎

# 第9響

Beethoven  
9th Symphony  
Concert



指揮◎井上道義

ソプラノ◎クリスティーナ・ランツハマー

メゾソプラノ◎藤村実穂子

テノール◎ベンヤミン・ブルンス

バス◎マシュー・ローズ

合唱◎新国立劇場合唱団 東京オペラシンガーズ



NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

2022年

12/21 水 7:00pm  
12/22 木 7:00pm\*  
12/24 土 2:00pm  
12/25 日 2:00pm

NHKホール

\*12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

発売開始：10月10日(月祝) 11:00am

N響定期会員先行発売(22日公演をのぞく)：10月5日(水) 11:00am

[定期会員は一般料金から10%割引、22日公演をのぞく]

料金(税込)	
一般	ユースチケット(25歳以下)
S ¥15,000	S ¥7,500
A ¥12,000	A ¥6,000
B ¥9,000	B ¥4,500
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥4,500	D ¥2,250

前売所

- WEBチケットN響 <https://ticket.nhkso.or.jp/>
- N響ガイド 03-5793-8161
- チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso/](http://pia.jp/t/nhkso/)
- e+ (イープラス) [eplus.jp/nhkso/](http://eplus.jp/nhkso/)
- ローソンチケット [l-tike.com/nhkso/](http://l-tike.com/nhkso/)

※ ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。  
感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)  
※ 定期会員割引(先行発売)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります  
※ 車いす席をご希望の方は、N響ガイド(22日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください

お問い合わせ

- N響ガイド：03-5793-8161(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)
- NHK厚生文化事業団：03-3476-5955(22日公演のみ、平日10:00am～6:00pm)

# 脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Marui gas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

## 水素&LPガスシェアNo.1\*

\*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

## Iwatani

岩谷産業株式会社